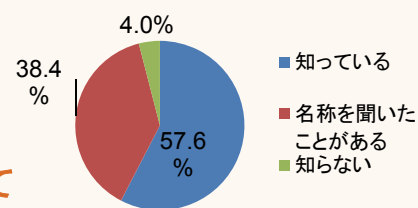


国民理解の現状

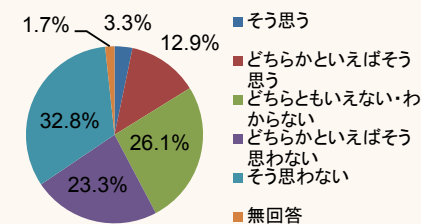
- アイヌの人々が北海道に古くから住んでいることは知られているが、歴史や文化等に対する知識は漠然としている。
- 北海道外では、情報発信は盛んとは言えない。
- アイヌ文化振興法の下で、アイヌ文化等の普及は着実に進展してきているものの、一般の国民の認知度には未だ課題。

＜問：「アイヌ」を知っているか＞



アイヌの人々・アイヌ文化に関する認知度調査(H24.3)
※全国3,000人から回答

＜問：アイヌの伝統文化に触れる機会が増えているか＞



アイヌ文化振興財団調査(H23.8) ※一般道民583人から回答

目標の設定

- 国民理解の現状を踏まえ、今後の普及啓発活動に以下の目標を設定し、認知や理解の度合いに応じた普及啓発手段を活用。
 - ・ アイヌ文化に親しみを持ってもらおう。(認知から興味・関心へ)
 - ・ アイヌの歴史や文化を理解し、文化伝承等の取組を応援してもらおう。(興味・関心から理解へ)

① 認知段階

アイヌのことを知らない層、興味・関心を持たない層

② 興味・関心段階

イメージレベルでの興味を持つ層、知的関心を持つ層

③ 理解段階

学習や交流への意欲を持つ層

「入り口」「広く伝わる」普及啓発手段を活用

「受け皿」「深く伝わる」普及啓発手段を活用

今後の取組の方向性

(1) 「認知」から「興味・関心」の初期段階の層に向けた取組

① 観光

- ・ 看板等へのアイヌ語使用、公共の場における展示の拡充、「語り」などの交流による理解促進、アイヌの伝統的食文化の活用 など
- ・ 「イランカラプテ」(アイヌ語の挨拶)を北海道のおもてなしの言葉(キャッチフレーズ)と位置付け、キャンペーン的な展開を検討

② マスメディア

- ・ 映画、ドラマ等の作成やマスメディアへの露出拡大に向けた働きかけ、マスメディア関係者との定期的な情報交換 など

(2) 「興味・関心」から「理解」に至る段階の層に向けた取組

① インターネット

- ・ 内閣官房ホームページの改善、ポータルサイトの整備、動画等のコンテンツの充実 など

② アイヌ文化交流センター(東京八重洲)

- ・ アイヌ文化等に初めて触れる人を対象としたイベントの開催、学習成果を披露又は発表する機会の充実 など

(3) 留意点

- ・ 民間の取組を促す仕組み等の検討、民間ニーズの把握 など